



スマイル天神 No.28



令和3年11月8日
天神小学校
校長 木下 和弥

思いやりのある子・進んで学ぶ子・明るくたくましい子

サッカーを通して学んだこと（文字ばかりですみません）

私は、高校からサッカーを始めました。運動が特別得意なわけではない、身体もそんなに丈夫ではない自分がサッカーを始めることに、両親も心配していました。高校1年の高総体。一回戦の対戦相手は小嶺監督率いる国見高校。小峰監督が島原商業から国見高校に転勤した直後でした。高校2年生に後のアジアの大砲、高木琢也選手がいて、それ以外は全員が1年生。私の佐世保西高校でほぼ全員が3年生。試合が始まって現実の厳しさを痛感しました。コート的一半しか使わないほど一方的にずっと攻められました。国見高校の選手は技術力が高く、こんなにうまいのかと、ボール拾いをしながらびっくりして見入っていました。私たちは守り抜いてPKで勝つしか方法はないと考え、徹底的に守備とPKの練習をしていました。試合本番は、先輩たちがまさに体を張って、泥まみれになりながら50本以上のシュートを止めて0対0の引き分け。そして、PK戦へ。国見高校に、弱小進学校が勝利を収めるという大どんでん返しがありました。

私にとって、この試合がきっかけとなり、サッカーに魅力を感じ、その後サッカーを続けることとなりました。この時ひそかに、私の中で「公式戦でゴールを決める」という目標ができました。元々そんなに運動が得意なわけではないので、上手になることはありませんでした。公式戦に出るところか、メンバーに選ばれることすらない日々が続きました。ただ、暑くても寒くても雪でも雨でも、模試があっても寝不足でも、一日も練習は休みませんでした。そんなところはメンバーも監督も見えていたのでしょうか。高校3年生最後の高総体で、最後の5分間だけ出場させてもらいました。「木下、いくぞ。」その監督の声で、ベンチの後輩が「木下さん、がんばってください。」と声をかけてくれたこと、ピッチに入る時の交代メンバーが「木下さん、大丈夫です。」と声をかけてくれたこと、その後もみんなが温かく声をかけてくれたことだけは覚えています。下手ながらも練習は一度も休まず頑張っていたことをみんなが認めてくれたのでしょうか。多分この初公式戦の5分間は、ボールを触っていないのではないかと思います。それほど何も覚えていません。

その後、大学4年間もサッカーを続け、試合に出られることも少しずつ増えました。教員になって子どもにサッカーを教え、自分も練習を兼ねてトレーニングし、社会人のチームでもサッカーを続けました。メンバーが11名しかいないときもあり、初めてフル出場もできました。社会人サッカー3年目。その瞬間が思いもかけずにやってきました。ゴール前にたまたま詰めていた目の前にボールが転がり込み、押し込んでのゴール。公式戦でゴールを決めるという目標を立てて10年目のことでした。高校から共にサッカーをしてきた友達が「木下は今でも毎年上手になるよな」と言ってくれたことが嬉しかったです。

なかなか上達しない。メンバーに選ばれない。友達関係がうまくいかない…。サッカーやスポーツに限らず、人生は自分の思うようにならないことばかりです。しかし、ひねくれず、自分ができることを一つ一つ積み重ねていく。そのことによって目標が達成できることもあるし、自分が磨かれ成長し、その姿勢を周りも見てくれているのだと思います。

思うようにならないと、あきらめる。できない・やりたくないと思ったら、逃げる子ども…。自分本来の力を生かしきれずにもったいないと思うことがあります。逆に、こつこつとあきらめずに努力できる子どもは、今後の人生もどんどん豊かになっていきます。天神小の子どもを見ていて、このような力を身につけてほしいと思います。最後に、サッカーのリオネル・メッシの名言「努力は報われる？違う。報われるまで努力をするのだ。」